

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「人に子育てにやさしいまちづくり」～地域で支える子育て～

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道河東郡士幌町

3 地域再生計画の区域

北海道河東郡士幌町の全域

4 地域再生計画の目標

4 - 1 士幌町の現況

士幌町は十勝圏の中核都市帯広市の北方約28km、車で約30分の距離に位置し、町内を国道2路線（241号、274号）と主要道道（本別士幌線）が交差し、近郊都市への交通網をなしています。町域の西北部には東大雪山系の東ヌブカウシヌプリ（1,252m）を最高峰とする山岳地帯、東部には佐倉山系の丘陵と居辺川の河岸段丘地帯があり、年間降水量は800ミリ前後と少なく、年間日照時間が2,200時間前後と長く、快晴の日が多い特色を持っている。

総面積は25,913haで、耕地面積は全体の62%の16,000haと農業を基幹産業とする農村地帯である。

人口は昭和30年の10,181人(国勢調査)をピークに減少の一途をたどり昭和55年には6,979人まで減少したが、昭和60年7,044人、平成2年7,149人(国勢調査)と増加傾向となった。その後平成7年7,010人、平成12年6,839人、平成17年6,755人(国勢調査)となり再び減少傾向に転じたものの、農村地域としては安定しており、平成12年には過疎地域の指定から外れた。

人口の安定的な推移は農村工業の導入による雇用の拡大とともに住宅団地の造成や民間アパートの建設、福祉施設の整備等により定住人口の確保が図られていることによる。

4 - 2 地域における子育ての現状と課題

近年、核家族化の進行や個人の価値観・人生観及び生活習慣の多様化など、子どもや家族を取り巻く環境は大きく変化しており、特に出生数の減少から子ども同士のふれあいの機会が減り、また、家庭や地域における人間関係の希薄化は子どもに自主性

や社会性が育ちにくいという影響を与えている。

地域においても、育児に関する悩み事や知りたいことを気軽に相談できる人が少ないことから、保護者の孤立化や不安感の増大が指摘されており、共働き家庭のみならず、子育て家庭すべてを対象とする支援の充実が求められているところである。

4 - 3 基本目標

子どもは将来の社会の担い手であり、子どもたちが健やかにたくましく育つ環境づくりは、地域社会が協力して取り組むことが重要である。

こうした取り組みは、地域の将来を担う子どもを育成するのみでなく、それを支える地域に雌伏している人材に活躍の場を創ることになり、地域の持っている潜在力を引き出すものである。

このため、子どもの幸せを第一に考えて、すべての子育てをしている人が、安心して子育てができるよう、地域における様々な子育て支援サービスの充実を図るとともに、子育て家庭が必要とする情報の提供や学校、家庭及び地域の連携によるきめの細かい子育てネットワークの形成を促進する。

4 - 4 定量的な指標

項目	現状(19年度当初)	目標(21年度)
育児サークル数	0	3
地域子育て支援活動団体数	4	8
出生数(人)	13～17年度平均 62	65

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

保護者の子育てに対する不安や負担感を軽減し、安心して子育てができる地域社会を築くために、様々な子育て支援サービスを提供する。

特に、女性の社会進出が進む中、子育てをしながら安心して働くことができる環境の整備やニーズに応じたサービスを充実させる。

また、子どもの虐待やいじめなどの問題が顕在化していることから、子どもが健やかに成長する権利を尊重し、かつ、保障されるような環境を整備するとともに、子どもが地域活動に積極的に参加し、交流できる場を充実するため、様々な体験活動の機会を提供する。

5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

該当無し

5 - 3 その他の事業

5 - 3 - 1 基本の方針に基づく支援措置

市民活動団体等支援総合事業：【C2001】

事業名：『おいでよ遊～遊～村へ！』

事業区分：人材育成事業

実施NPO等名：遊～遊～村・村人の会

遊～遊～村・村人の会は、平成14年に「遊～遊～村」を開村し、大正時代建築の古民家を移築した「ふるさと子育て伝承館」を拠点に、子どもたちのための各種体験活動を展開している。

主な事業内容：児童の健全育成及び子育て支援ネットワークづくりのため次の事業を実施

- (1) 遊～遊～村・村づくり事業（子ども達による村づくり体験事業）
 - 村づくり事業(村づくりワークキャンプ実施,ウッドデッキづくり,ウッドデッキ上に「星の家」(天文台)づくり,手打ち井戸ボーリング,敷地を2分する用水路に橋をかける)
 - 歴史事業(地域の歴史探訪,「ふるさと子育て伝承館」歴史体験宿泊事業,北海道の古層としてのアイヌ文化探訪)
 - 文化事業(地域の文化財、修復なったピアノによるピアノ物語の創作)
 - 自然体験事業(村内を流れる用水路を使った水と遊ぶ親水塾,遊～遊～村キャンプ,間伐材による炭焼き,冬の寒さを逆手にとったしばれ塾)
 - 環境事業(育苗,植樹,日本ザリガニの保護,自分達で焼いた炭を使った村内汚水浄化システム製作)
 - 食育事業(落ち葉による堆肥づくり,有機農法による「ゆうゆう農園」づくり,石窯クッキング,地産地消事業)
 - 障害児事業(特別支援教室との連携事業)
- (2) 村人育成講座の開催(夢工房・大人編)
- (3) 村人育成講座の開催(夢工房・ジュニア編)
- (4) YU～YU～ネット(IT・携帯による情報発信)
- (5) 遊～遊～村シンポジウムの開催(講演会)の開催
- (6) 遊～遊～村フェスティバルの開催
- (7) ピアノ物語(創作コンサート)の開催

5 - 3 - 2 支援措置によらない主な独自の取り組み

子どもと子育て家庭を取り巻く環境の様々な変化に対応し、子どもの成長と子育て

てを社会全体で支援し、子どもが尊重され、子育てが大切にされる社会を構築するため、行政はもとより家庭、学校、地域社会、企業をはじめ、すべての町民がそれぞれの立場で子育て支援に取り組んでいく。

(1) 保育サービスの充実

子育てをしている人が安心して働くことができるよう、ニーズに応じた利用しやすい保育サービスを提供する。

就学前の教育・保育を一体として捉えた取り組みを進めるため、土幌幼稚園と土幌保育所の一元化を進めるとともに、へき地保育所については、保育サービスを含めたあり方の検討を行っていく。

また、保育環境の充実を図るため、施設の充実や保育士の資質向上を図る。

(2) 子育て支援サービスの充実

保育所(園)の開放事業や地域子育て支援センター事業を充実するとともに、地域において会員同士が育児に関する相互援助活動を行うファミリーサポート事業を推進する。

また、子育て全般にわたる情報提供や関係機関との連絡調整を行い、スムーズに目的が果たせるよう「子育て支援総合窓口」を設置する。

さらに、放課後児童の居場所対策として、利用希望を踏まえ、学童保育の充実と児童館の整備を推進する。

(3) 子育て支援ネットワークづくり

「地域子育て支援センター」が拠点的役割を担い、関係機関と連携し、積極的に育児サークルの組織化を推進するとともに、子育て支援のための人材の育成と発掘を図る。

(4) 児童の健全育成

学校や地域、生涯学習施設などにおいて、多様な交流体験機会を提供する。

また、こども会や少年団などの指導者や地域ボランティアの発掘・養成を図り、児童の健全育成を地域全体で進めていく。

さらに、いじめや非行・不登校などの問題行動について、学校・児童相談所などの関係機関や地域との連携を強化し、適切に対応する。

(5) 世代間交流の促進

生涯学習・スポーツ活動を通じて、町内会・地域ボランティアとの連携・協力を図り、地域の社会資本を活用しながら、地域の歴史の伝承や体験活動、世代間交流を進め、人格形成や社会性の向上を図るため、高齢者も含めた地域全体で子育てを支援する環境を整備する。

6 計画期間

認定の日から平成22年3月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

計画期間中は単年度ごとに町が必要な事項を調査し、目標達成状況を評価改善す

べき事項の検討を行い、各事業に反映させる。

また最終年度(21年度)において、それまでの取組みについて総合評価を実施する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し

